

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

尿中微量アルブミンが基準値を超えた糖尿病患者に対する、当院が行う透析予防支援効果に関する検討

2. 研究責任者(当院)

所属： 聖隷佐倉市民病院

氏名：長谷川裕美

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：該当なし

代表名：該当なし

3. 分担研究者

所属：該当なし

氏名：該当なし

4. 研究対象者

2022年4月1日～2023年4月30日の間に当院通院中の患者で、尿中微量アルブミンが基準値を超えて間もなく透析予防支援を受けた患者と、2020年5月～2023年3月の間に通院中の患者で、通常通り4回以上継続して尿中微量アルブミンが基準値を超えた後に透析予防支援を受けた患者。

5. 研究の必要性

Steno-2study では、医療チームで行う包括的治療の重要性や早期介入による腎症進行予防が示されている。また、梅岡らの先行研究では、糖尿病腎症2期の患者に糖尿病透析予防管理支援をした結果、1年後にはHbA1cやeGFRなどが有意に改善し、糖尿病腎症2期の約47%が1期に、3期の約40%が2期へ改善したと示されている。

当院でも2012年より糖尿病透析予防支援を開始し、年間200名程の糖尿病腎症2期から5期にあたる患者へ、日本糖尿病学会の糖尿病治療ガイドをもとに、患者が病期を理解し腎臓を守るための療養行動ができるようになるための相談や、セルフモニタリング、症状管理指導を行っている。また、データやセルフケアの改善が乏しい場合は、2週間ほどのCKD教育入院を実施している。

数回の支援で、腎臓を守るための療養行動ができる患者もいるが、長い期間継続して尿中微量アルブミンが排泄されている患者では、自覚症状に乏しいなか療養行動をとることが難しく、受診毎に支援を必要とするケースもある。今回腎症3期に近い患者から、「もっと早く腎臓が悪いと知りたかった。もっと早く気を付けてれば、よかった。」と言われたことを機に、尿中微量アルブミンが基準値を超えた時点で、透析予防のためのケア介入をする事によってもたらす身体的、心理的な効果を明らかにする。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

尿中微量アルブミンが基準値を超えて間もない糖尿病患者に対し、当院が行う糖尿病透析予防支援効果を検討することで、従来よりもさらに尿中微量アルブミンの正常化や糖尿病腎症の進行を抑制できる可能性がある。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151(代表)

担当者氏名：外来看護師 長谷川 裕美

対応時間：平日 9:00～17:00